

(1)「ささえあい」を進める担い手へのヒアリング調査結果から出てきた課題・解決策

1 ささえあい事業(協力員)

【主な課題等】

- 1 町内会等各地区にこの事業を広げ、不公平感のない支援実施や組織体制作りやノウハウの提供が必要だが、独自の取組を実施しているところが少ない。
- 2 区民(利用希望者)へのPRが十分できていない。
- 3 利用度が低調であるため、その原因を分析する必要がある。

【これまで出された解決策など】

- 1 利用したい高齢者などにより情報が届くような広報方法を検討していく。
- 2 利用度の低調な原因(町内会ヒアリング結果)
 - ・他の有料制度を活用する人の増加
 - ・簡単なことは、近隣の人に頼んでいる。
 - ・他人に干渉されたり、知られたくない人の増加
- 3 区社会福祉協議会で制度見直しを実施中のため、その動向を見守り、支援が必要な場合対応していく。

2 ボランティア団体

【主な課題等】

- 1 対象者からの依頼が少ない。(団体により差有り)
- 2 既存の情報発信だけでは、対象への周知が困難
- 3 それぞれの取組をPRする場面が必要
- 4 活動場所、人材の確保や活動資金などの問題

【これまで出された解決策など】

- 1 利用したい高齢者などにより情報が届くような広報方法を検討していく。
- 2 関連する部門を横断した合同キャンペーンなどを通じた、PRの機会の提供
- 3 活動場所、活動資金などについての解決策を区民会議として検討するのは困難

3 町内会・自治会

【主な課題等】

- 1 利用者(高齢者・障がい者・子どもなど)の情報入手するのが困難(行政からの情報提供が限定している)
- 2 民生委員の業務負担が多く
- 3 役員などのなり手不足と高齢化の進展
- 4 役員任期が短く、新たな課題への対応が困難

【これまで出された解決策など】

- 1 小さな地域での繋がりを強める、共助のシステムづくりの検討(新百合ヶ丘自治会の取組)
- 2 防災訓練などの地域活動・イベントを通じた繋がり強化への取組の検討
- 3 民生委員の活動を町内会として支援する体制づくりの検討(岡上町内会の取組など)
- 4 地域人材の発掘方法の検討(災害発生時の対応など)

4 その他(高齢者のメンタルヘルス)

【主な課題等】

- 1 今後、高齢化の進展に伴い、介護生活や単身高齢者が増加し、高齢者のメンタルヘルスが大きな問題となる。
- 2 平成21年の自殺者の内、60歳以上の方が占める割合が37%と高い割合を占めている。

【これまで出された解決策など】

- 1 「コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワーク」が機能するための取組の検討
～身近なところでの、早めに相談できる体制～

高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり

(2)解決策の具体化

【広報活動】

- ・ささえあいを必要とする、高齢者、障がい者に情報が届く広報方法の検討(例:市政だより区版、特別号等の活用)
- ・各団体の取組をPRできる機会の検討(例:区民会議フォーラム等での場の提供)

【担い手】

- ・ボランティア団体と連携した地域活動の実施
- ・民生委員活動への支援体制づくり
- ・地域人材の発掘方法の検討

【地域の絆づくり】

- ・小地域で見守りを行う制度の検討
- ・地域活動等を通じた地域交流の場の検討

【その他】

- ・コミュニティバス(高齢者の交通手段)の検討
- ・「コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワーク」が機能するための取組の検討

【取組を進める上での共通した検討事項】

- ・現在行われている事業の内容の見直しなどの検討
- ・ボランティア団体、町内会・自治会、区社協区などの役割整理